

[成果情報名] モモ「さくひめ」のハウス栽培における高糖度果実生産のための果実重

[要約] ハウスモモ「さくひめ」は収穫時の果実重が大きいほど糖度が高い傾向にあり、果実重 250 g 以上では高糖度 12 度以上の割合が高くなり、果実重 200g 未満では低糖度 10 度未満の割合が高くなる。

[キーワード] さくひめ、ハウス栽培、収穫果実、果実重、糖度

[担当] 長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・ビワ落葉果樹研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 指導

[作成年度] 2019年度

---

### [背景・ねらい]

農研機構育成の早生モモ「さくひめ」は低温要求量が少なく、温暖化対応品種として普及が見込まれており、現地への円滑な導入のために果実特性の解明が求められている。また、九州地域のハウスモモは早生品種が中心であり、収穫期に梅雨時期が重なることから、小玉で糖度が低い傾向にある。

そこで本研究では、九州地域で温暖化が進行しても継続的な栽培が可能である「さくひめ」において、夏果実として魅力ある糖度 12 度以上の果実生産技術の確立を目的として、糖度と果実重の関係を明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

1. 成木および若木において、収穫時の果実重が大きいほど糖度が高い傾向にあり、糖度 12 度以上の高糖度果実の割合は、果実重 250 g 以上では 6 割程度、200～250g 未満では 2 割程度、200g 未満では 1 割以下となる。また、果実重 200g 未満では 10 度未満の低糖度果実の割合が高くなる（図 1、図 2）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 本研究は果樹・茶研究部門内に植栽している「さくひめ」を調査に用いた。成木は樹令 7～9 年生、2017～2019 年産の無加温栽培の結果であり、若木は樹令 4 年生、2019 年産の加温栽培および無加温栽培の結果である。
2. 摘果等の栽培管理は「日川白鳳」に準じて行い、中果枝 1 果、長果枝 1～2 果、長大長果枝 2 果を目安に着果させた。調査は、収穫期に 1～3 日毎に適熟果を採取し、午前 10 時までに採取した果実について当日午後 4 時を目安に糖度を調査した。
3. 本研究成果より、糖度 12 度以上の高糖度果実生産のためには果実重 250g を中心とした着果管理が必要であり、今後着果量等の栽培管理の検討が必要である。

[具体的データ]

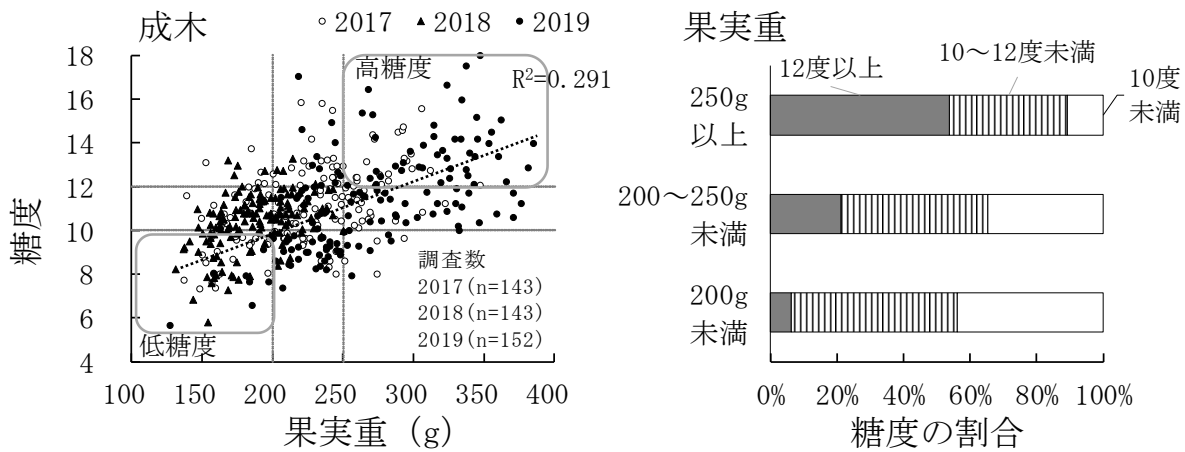


図1 成木「さくひめ」の果実重と糖度の関係と割合  
(無加温栽培、2017~2019)

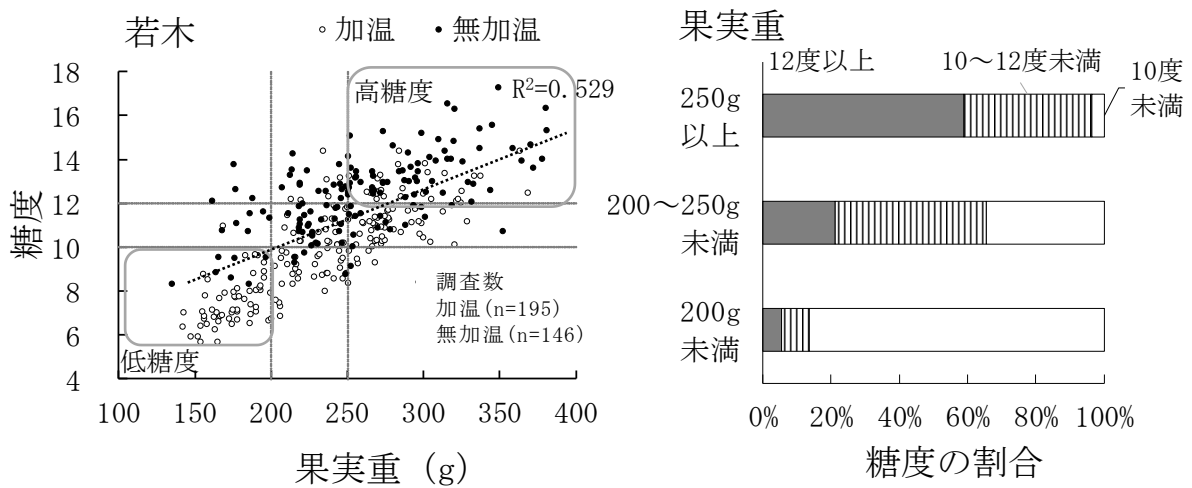


図2 若木「さくひめ」の果実重と糖度の関係と割合  
(加温栽培および無加温栽培、2019)

[その他]

研究課題名：モモ有望品種「さくひめ」のハウス栽培技術の確立  
 予算区分：県単  
 研究期間：2017~2021年度  
 研究担当者：松本紀子